

令和7年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

9

教科名(国語) 教科主任名 渡邊 悠太

★9月1日(月)までに入力してください。

★教科・観点について

学力向上のための調査・期末テストと学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	前半～9月			後半～1月			次年度に向けて まとめ
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	
知識・技能	1年	○漢字の学習ワークを活用して、毎授業5分間漢字学習を習慣化し取り組むことができた。 ▲小テスト後の漢字を復習することや、家庭学習の習慣化につなげていきたい。	・授業で教る5分間の内容を工夫し家庭学習を促すとともに、定期考査などの総復習する機会を増やし、漢字の定着を目指していく。	1年			
	2年	○知らない言葉の意味を調べ、その言葉を使って文章を書く活動に継続して取り組み、豊かな語彙の形成に努めている。 ○漢字のワークと小テストへの取組を習慣化し、学力の定着を図っている。	・生徒によって取組状況に大きな差があり、それに伴って学力の二極化が見られる。全員が意欲的に取り組めるように、タブレットを利用する等、工夫の方法を摸索していく。	2年			
	3年	○漢字のワークの学習を中心に学習を進められた。 ▲定期テストの結果から、漢字の定着度(書き取り)が低かったため、知識を定着させる必要がある。	・学習者用端末なども活用しながら知識を定着させる。	3年			
思考・判断・表現	1年	○構成を工夫して書くこと、話し合い活動に積極的である。 ▲話し合い時、作文課題時の積極的な姿勢が内容の質につながるようにしていきたい。	・話し合いの原則を確認したり、話し言葉と書き言葉について確認していく。 ・構成を工夫して書く力を、他教科にも横断して活かしていくように連携を取る。	1年			
	2年	○文学的な文章の読み取りにおいては、多様な意見が出来、深まりを感じることが多い。 ▲話し合いやスピーチ、音読等、声に出してアウトプットすることに消極的である。	・ペアワーク等、小集団での活動を多く取り入れながら、自信をつけさせる。	2年			
	3年	○自身の考えを表現することができた。▲より良い表現方法を自分自身で創意工夫させたい。	・表現方法について考える際、他者との交流などを通して深めていく。	3年			
主体的に学習に取り組む態度	1年	○わからないからやらないではなく、粘り強く取り組み、周りとも協力する姿勢が多く見られる。 ▲主体的に取組むことで身に付けた力を、今後どのように活用するか、考えることができるようにする。	・学習計画表を通して、今後どのような場面で身に付けた力を活かすことができるのか意識した振り返りをしていく。	1年			
	2年	○単元のはじめに配布する「学習計画表」を利用し、見通しをもつたり振り返ったりすることが習慣になっている。振り返りでは、単元で身に付けたことを自分の言葉で表現しようとしている。	・単元のはじめと終わりに加え、途中でも、振り返りを行う時間を確保する必要がある。	2年			
	3年	○単元の学習が終了する際、ワークシートで自身の学習について考えることができた。 ▲学習したことを生活に生かすというところまで深めさせたい。	・振り返りの時間を単元の学習最後に設け、「今回の学習で今後に生かせること」を具体的に考える。	3年			